北海道教育大学　へき地・小規模校教育研究センター（通称：へき研センター）
Hokkaido University of Education Research Institute for Remote and Small School Education（aka HUERISE）
令和６年２月５日発行　第１３８号

へきけんニュース

【ホームページ　https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/】
へき地教育に関するオンデマンド研修ビデオ・資料・フォーラム等のお知らせなどが豊富に掲載されています！
kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp
0154-44-3291　FAX 0154-44-3292

背景は北海道教育大学旭川校

令和5年度　旭川校へき地校体験実習報告会について
～新たな小規模校の良さを実感した学びの体験～

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター
旭川校へき地教育アドバイザー　伊 端　俊 紀

1　はじめに　～ 喜ばしい参加学生の増加

伊端　俊紀アドバイザー

12月15日（金）、令和5年度の「旭川校へき地校体験実習報告会」が行われました。

今年度の旭川校へき地校体験実習は、定員69名のところ、74名の学生が参加を申し込み、定員オーバーという状況になりました。そのため5名の学生は、４年次での参加ということになるところでしたが、美瑛町の2校に打診したところ、両校とも快く学生を受け入れてくださり、74名全員の参加がかないました。最終的には、コロナウイルス感染のために１名参加を断念したため、73名となりましたが、昨年度に比べて15名ほど増加しました。これは、コロナウイルス感染がある程度落ち着いたことと、昨年までの実習受入校の素晴らしい対応の積み重ねにより、学生達の学習意欲が高まった結果と認識しています。そして、73名の学生は、全員、無事に実習を行うことができました。これもひとえに、受入校や各教育委員会のご協力はもとより、関係各位のご理解とご支援の賜であり、感謝申し上げます。

2　今年度の実習と発表の概要　～ 素晴らしい経験と意欲的な発表

今年度は、上川管内と宗谷管内の31校に実習を受け入れていただき、前述のとおり美瑛町立美沢小学校と美馬牛小学校の2校が新たな受入校となりました。受入校と教育委員会には、例年同様、手厚いご支援をいただきました。特に今年度は、自家用車を使用できる学生が少なかったために、宿泊場所からバスで通勤することになった実習校が数校ありましたが、いろいろと便宜を図っていただいたことにより、無事に実習を終えることができました。また、どの協力校にも実習生の生活への気配りをいただきました。本当にありがたいことです。

報告会では、まず初めに旭川校の安藤秀俊キャンパス長からご挨拶をいただきました。その中で、「教育実習では得られない、へき地校ならではの体験が出来るこの体験実習は、この後の大学生活や教員生活においても貴重な良い経験となるという報告が多くある。だから、これから参加する学生を含めて、今日の報告会を有意義なものにしてほしい」という温かな激励の言葉をいただきました。

安藤　秀俊キャンパス長

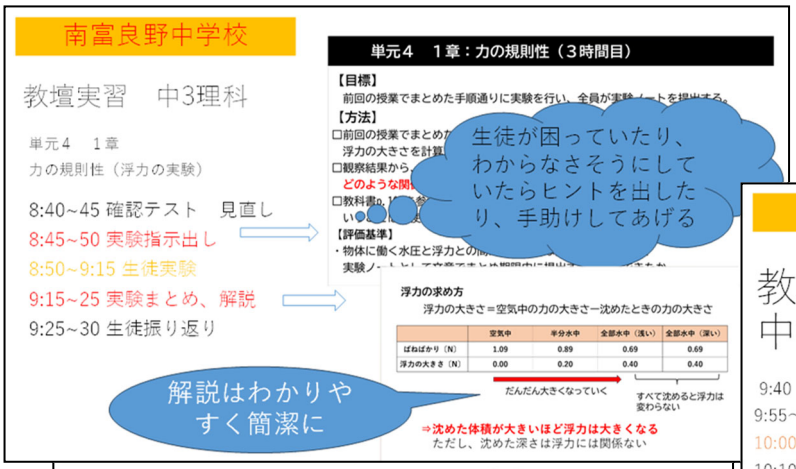
学生の発表は、あらかじめ選ばれた5校が行いました。どの学生も意欲的に発表準備を行い、自分たちが実習で理解したこと、得たもの、自分の課題、実習の楽しさ、気持ちや意欲の変化などを参加者に確実に伝えようと努力することができていました。また、今年度の講義「へき地教育論」受講生も参加し、次年度の参加意欲を高めることができました。

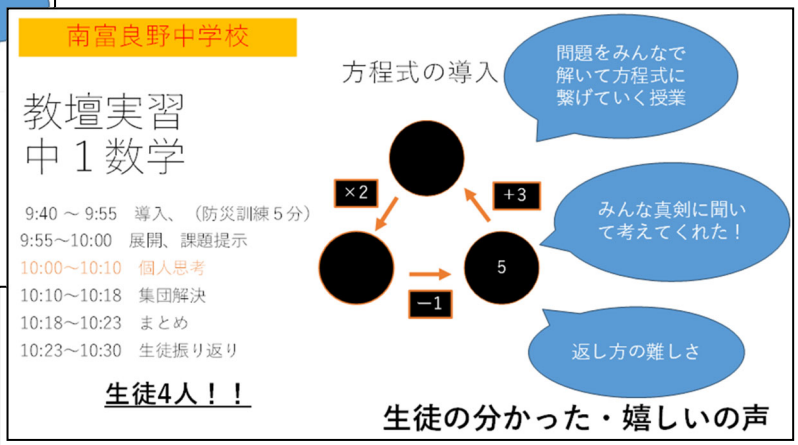
さらに、発表した5つの学校の皆さんにもオンラインで参加いただき、実習生に温かな声かけをしていただき、大きな励みになりました。

3　各校の発表より　～ 直に感じたこと・気づいたこと・得たこと

南富良野町立南富良野中学校 ― 教師の魅力を実感し、高まる教職意欲 ―

南富良野中学校では、3名それぞれが教壇実習を行いました。その中で、「少人数であるため全体を見て回りやすく困っている生徒を見つけやすい」「生き生きと楽しそうに授業に取り組んでいて生徒主体の授業の良さを感じた」「振り返りシートに『分かった！』『問題が解けて嬉しかった。』と書いてありとても嬉しかった」と感じられたようです。加えて、「全体を見て回ることの大変さを学ぶことができた」「答えてくれたことに対しての返し方が難しい」という気づきをもち、もっと良い授業をしたいと意欲を高めることができたようです。

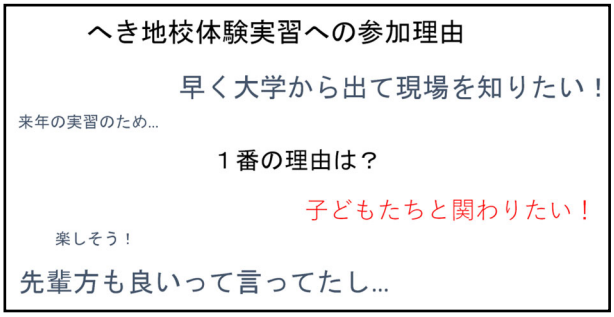




また、先生方を見て、教員の忙しさを理解した上で、日々生徒に誠実に向き合っている先生方をかっこ良いと感じ、子どもたちと毎日関われる教師の仕事にとても魅力を感じるなど、教職意欲を高めることもできたようです。

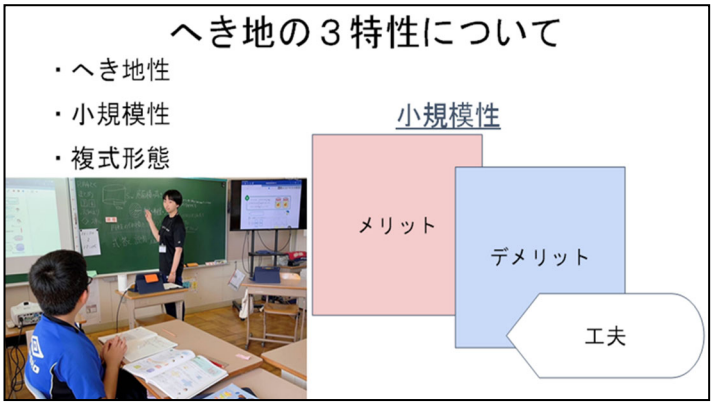
中富良野町立宇文小学校 ― 小規模のデメリットを克服する工夫に気づく ―

宇文小学校では２名の学生が実習を行いました。二人がこの体験実習に応募したのは、「早く大学の外へ出て現場を知りたい」「子どもたちと関わりたい」という理由とともに、「楽しそう」という思いがありました。これは、ただ単に軽い気持ちということではなく、昨年度の報告会で、先輩方が生き生きと自信に満ちた姿で体験実習の楽しさ・素晴らしさを伝えてくれたから生まれたものです。



実習中は、3～4回の教壇実習を体験できました。模擬授業などをしたことがなくて手探りの中でしたが、先生方にたくさんアドバイスをいただきながら貴重な経験を積むことができたようです。その中で、児童がとても頑張って取り組んでくれたことにより、授業が成り立ったことに喜びを感じたようです。

宇文小学校の小規模性についても、「一人一人の特性を考慮した授業展開」など小規模性のメリットとともに「様々な意見が出にくい」「学年に一人だとグループ活動ができない」というデメリットも見ることができたようです。さらに、先生方がそのデメリットを克服する工夫をしっかり行い、成果を上げていることにも気づくなど充実した実習になったことが感じられました。



士別市立温根別小学校 ― ふれ合いの中で児童理解を深め、先生方から学ぶ ―

温根別小学校

実習の流れ

7:50　出勤

8:05　朝トレ

8:10　朝読書

8:25　朝の会

温根別小学校

教壇実習

・準備が大変だった分、終わった後の達成感はすごかった。
・子どもたちと楽しく授業を行えた。
・子どもたちが頑張ってくれた。

温根別小学校の発表の中で、全校で行う「朝トレ」が伝えられたとき、会場の学生からある反応が感じられました。講義「へき地教育論」で、体力について学ぶ中、へき地校児童生徒の体力が自分のイメージと違って高くないことを意外に思った学生達にとって、この「朝トレ」が、その課題解決の手立てとして映ったようです。

温根別小学校では、一人１回の教壇実習を行いました。授業日は最終日だったので、４日間の準備期間は担当の先生と指導案検討を繰り返しました。また、授業参観では、自分の授業に向けて、児童の様子や先生の発問の仕方などを意識して観察することができ、より実践的なものになったようです。準備は大変だったようですが、頑張った分、授業後の達成感は、かなりあったそうです。また、他校と同じように、児童からの「楽しかったよ」という言葉や頑張る姿に喜びを感じました。

子どもたちとのふれあい

この５日間、授業や休み時間、給食時間、清掃時間など、いろいろな場面で児童と関わることができ、そのふれ合いの中で、しっかり児童理解が進んだようです。

幌加内町立幌加内小学校 ― 何気ない瞬間の「教育」、座学以上の経験と刺激 ―

幌加内小学校での実習は運動会と重なり、その練習や運動会での児童の活動状況を見ることができました。これは、学生にとって、とても貴重な経験となったようです。縦のつながり、学年を超えた仲の良さを感じるとともに、小規模校ならではの全校児童団結して頑張って活動する姿を見ることができたようです。

幌加内小学校

学校生活

・学年の壁を越えて遊んでいる

・運動会の発表に向けて「よっちょれ」と「よさこい」の練習

教壇実習は、それぞれ１回ずつ行い、授業は児童の協力なしでは進まないということを実感したようです。これは、他のどの学校でも報告されていますが、そのためにも、一人一人の児童生徒の性格などを理解すること、そして、その理解をもとに授業をつくっていくことが重要だという学びを得たようです。

この５日間の実習を通して、普段の何気ない瞬間でも「教育」していると感じられたようです。先生方のあたたかさ、その上に成り立った振る舞いを目の当たりにして、大学での座学以上の経験と刺激をうけることができたようです。

幌加内小学校

教壇実習

子どもたちと授業を作っていく
↓
子どもへの理解の重要性

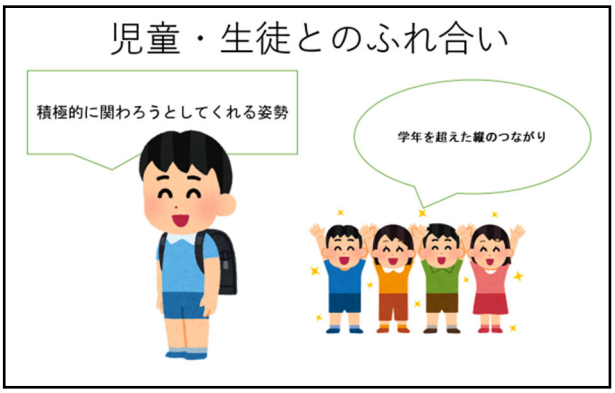
幌加内小学校

感想

・普段の何気ない瞬間でも「教育」をしている

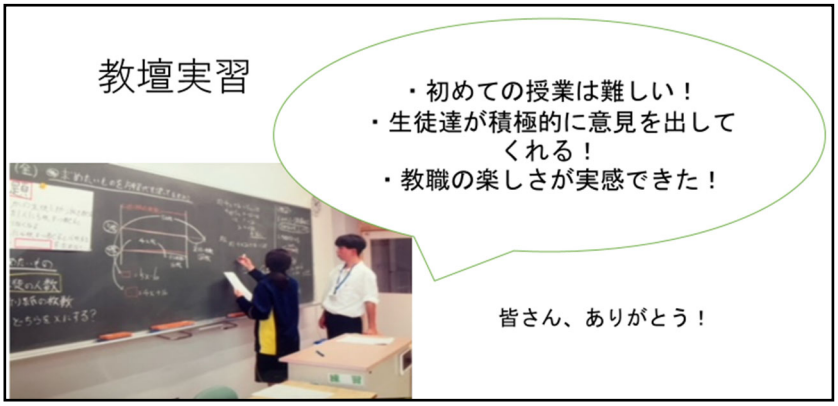
・座学以上に沢山の経験、刺激を受けることができた

名寄市立智恵文中学校　－ 教師と生徒が築き上げた信頼関係・強い絆を知る －



智恵文中学校は、とても小さな中学校です。その小ささ、人数の少なさがいかされ、学年の枠を越えた仲の良さを見られたようです。昼休みなどでは、１～３年生が一緒に遊んでいるという姿は、自分たちの経験してきた学校とは大きく違い、新鮮に感じたようです。

また、この小ささ、小規模性は、生徒間だけではなく、生徒と教師の距離感にも表れていることも理解できたようです。この距離感の近さは、お互いが友達になってしまうというものではなく、そこには、これまで築き上げてきた信頼からくる強い絆があると感じ、しっかりと時間をかけてできあがったものだというところまで考えられたようです。



教壇実習は、それぞれ１回ずつ行わせていただきました。準備では、とても苦労し、初めての授業を行う難しさを痛いほど感じ、何度も模擬授業を行い、担当の先生と教材研究を重ねました。そして当日は、とても緊張し、不安だったようですが、やはり、生徒達の積極的な活動で、授業を楽しむことまでできたようです。

４　おわりに　～ 貴重な経験ができるへき地校体験実習

芳賀　均　運営委員長

最後に、講評をへき地校体験実習旭川校運営委員長の芳賀 均先生からいただきました。学生達の発表の中にあった「学校は楽しい」「子どもはかわいい」「教師のやりがい」「一緒に授業をつくる」「一人一人が活躍できる」というキーワードをもとに、ご自身の経験と合わせて、それらの言葉の大切さを教えていただきました。そして、この２年生という時期に、貴重な経験が出来る体験実習の大切さについても、気づかせていただきました。また、最後に芳賀先生から参加した一人一人に「へき地教育プログラム修了証」が渡され、卒業証書と一緒に大切に保管してくださいという言葉もいただきました。

最初に述べたとおり、この報告会には、現在、「へき地教育論」を受講している学生が講義の一環として参加しました。受講生の感想からは、「学校は楽しいということに立ち返らせてくれる講義だった。」「先輩方が自信に満ちていた。」ということが書かれており、先輩方が他では得がたい貴重な体験をしてきたことに、感心したり安心したりしながら、来年度のへき地校体験実習への参加意欲を高められたことがうかがえました。

へき地教育プログラム修了証 授与

今年度も少なからずコロナウイルスに影響を受けながらの開催になりましたが、来年度こそは、安心して体験実習が行われることを願っています。そして、これまで同様、皆様方のご協力をいただき、へき地校体験実習を実りあるものにしていきたいと考えております。

これからもよろしくお願いいたします。